

入
選

— 中学生以下の部 —

「命を持つ全ての人に」

中村嶺那さん

推 し 本:『コウノドリ』

著 : 鈴ノ木 ユウ

推したい相手: 多くの人



「命を持つ全ての人に」 中村嶺那

みなさんは『コウノドリ』という漫画をご存じですか？私が生きてきた中で一番感動し、ぜひ多くの人に読んでもらいたいと思った作品なのでこれを紹介したいと思います。なぜなら全ての人の命の誕生に関する物語だからです。天才ジャズピアニスト、ベイビーにはもう一つの顔があります。それは聖ペルソナ総合医療センター男性産科医、鴻鳥サクラとしての顔です。彼は、出産に対する無理解やそれに伴う危険に立ち向かいながら、産まれてくる命を守り、新しい命と両親が幸せに生きるために全力を尽くしていきます。この漫画の素晴らしい所は、“リアルを書いている所”だと思います。通常、漫画ではハッピーエンドが多いのですが、コウノドリは違います。『中には救えない命』の話も現実として書かれているのです。出産は全て同じケースではありません。生命の誕生は素晴らしいことですが、中には救えない命もあるのです。そんな残酷な物語もコウノドリは一つも隠したりせずに現場を忠実に描いています。この描き方が長年、ファンの心をつかんで放さない理由でもあります。一つ一つの命の大切さを正しく書き出すところが素晴らしいのです。また、『妊婦に起こる問題』『家庭に起こる問題』『医療従事者に起こる問題』もそれぞれ描いているのです。このことについて詳しく説明していきたいと思います。まず一つ目に『妊婦に起こる問題』です。出産は危険をはらみます。病気はもちろんのこと事故などもともないます。良い事ばかりではなく、危険があることも教えてくれています。中でも、“病気”に関して沢山のケースが描かれていました。この本から学んだ病気も数多くあります。通常手にとる漫画では、“デリケートな事”として性病などの問題等はあげられにくいので10代である私達はなかなか知ることができません。しかし、コウノドリは違います！色々な事例を知り考えさせられました。視野の狭い自分に問題提起をしてくれたこの漫画には感謝の気持ちでいっぱいです。出産にそなえて、予防できることもあるので、ぜひ多くの女性に読んでもらいたい部分でもあります。次に『家族に起こる問題』についてです。よく出産には男は何もできない、何もしなくていいと思われがちです。しかし、実は夫の言動

や行動が出産やその後の家族の鍵になるのです。また、出産の時に必要とされるのは『理解力』です。もちろん、全身全霊でケアをし相談に乗ってくれる素晴らしい配偶者もいると思います。しかし、これをしてくれない人も数多くいます。最も良くないのは『いたわりが必要と理解できていない人』です。つわりで歩けない人もいるのに家事をおしつけたり暴力や暴言をする夫もいるそうです。この行動は「理解していない」から起こるものだと思います。子を産む妻の心と体の変化をしっかりと理解してほしいと思います。また『協力』も必要です。出産が終わっても、「産後うつ」と呼ばれる症状が表れることがあり、心が安定せず、不安や悲しみでいっぱいになってしまうそうです。そのような時に赤ちゃんのお世話や義両親の介護、家事等を行うことはとても大変なことです。ですから夫は妻の心の支えとなって家事や育児を率先して行うことが大切だと思います。三つ目に『医療従事者に起こること』について説明します。出産時は医療従事者にとっても様々なハプニングが起こることがあります。例えば子供か母親かどちらかの命しか救えなかったり、赤ちゃんが泣かず呼吸ができていないことなどです。このような大変な時でも主人公は冷静に物事を判断し新しい命の誕生に最善を尽くしていきます。その姿は偉大で尊敬に値します。私は将来、外科医になることを目指していますが、鴻鳥先生のように一つ一つの命を大切に、またそれにかかわる全ての人が幸せと感じられるよう全力を注げる医者になりたいと思います。語ることが多くなりましたが、「コウノドリ」は素晴らしい作品です。今回、私の愛読書として改めて考えながら読み直していると生命の誕生と医療にかかわる人の凄さが身に染みて感じられました。感動や苦しみ、命があることのありがたさ、愛情など人が生きるための原点がこの作品で感じることができます。また、出産はこの世の奇跡のかたまりなのだと改めて考えさせられました。命が誕生するのはとても尊く、愛で包まれています。しかし大きな壁も沢山あります。そこを乗り越え、みんなが笑顔で生きていけるよう誕生の喜びを忘れることなく、常に思いやりといたわりの心を持ちお互いに手助けし合い、社会が子ども誕生を心から喜べる環境にしていきたいと思います。